

名護岳自然観察会～身近な自然を観察しよう～

講師:安座間 安史 氏(沖縄生物学会会員) 日時:令和8年2月15日(日) 9:00~12:00

場所:沖縄県立名護青少年の家、名護岳沢コース 対象:どなたでも参加可能(1時間程度歩く体力のある方)



座学の様子

育雛:4月上旬~6月中旬

- 抱卵期間は平均11日前後、雌雄で抱卵するが、夜間の抱卵はオスがおこなう。
- 育雛期間は約4週間。
- ヒナ数は1~4羽(2羽が多い)
- 巣立ちのピークは5月下旬頃。
- 育雛の阻害要因として、
 - ①ヘビやカラスによる捕食、
 - ②巣内への雨水の浸入、
 - ③巣木倒壊などがある。

写真4. 巣内ヒナ。

写真5. 巣立ち間近のヒナ(巣口に足の爪をかける)

ステップA: 雛は巣内に入り給餌する(約10日間)
 ステップB: 雛は首を突っ込み給餌する(約10日間)
 ステップC: 雛が巣口に顔を出し餌を受け取る(約7日)
 ステップD: 給餌後、甲高い声を出し巣立ちを促す(種)



名護岳は戦争時の爆撃や乱伐により一時期はかなり荒廃していましたが、燃料がガスや電気に代わり、70年代以降は伐採の激減により森林が回復し、固有種が復活しつつあるそうです。

↑ヤンバルの固有種として「ノグチゲラ」の生態について学びました。シイの木などの太い木に穴を掘って巣を作り、どんぐりや昆虫を食べて生活している。

↑座学の後は、自然観察をしました。歩きながら木の種類や葉の見分け方、その他生物について学びました。



↑さくら色をしたキノコを見つけました。サクランメジでしょうか? 美味しそうですね。



↑アオミオカタンシがいました。「準絶滅危惧」のカタツムリです。



↑若葉のうちは強い日差しから組織を守るためアントシアニンという色素により葉が赤くなります。



登り下りや滑りそうな場所が多かったですが、誰一人として怪我が無く、自然観察ができて良かったです。受講者は講師の話を楽しそうに聞いており、資料で植物の種類を見返していました。本講座を通して名護市の自然環境に興味を持ち、多様な動植物の貴重さを学ぶことができました。